



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

第152期 中間株主通信

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日

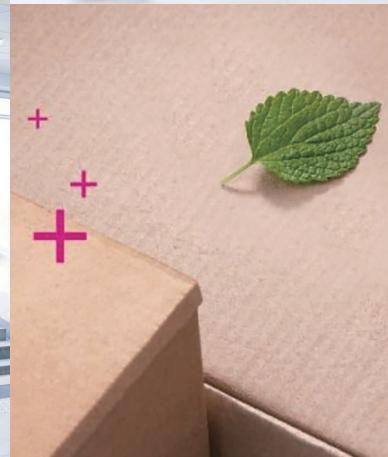
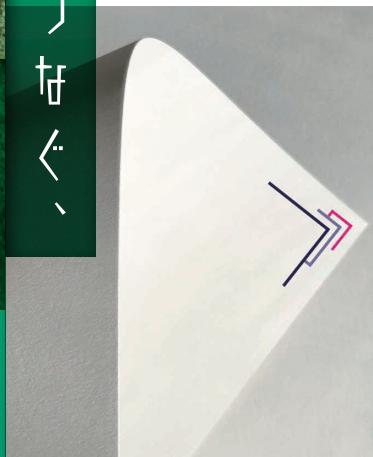
紙
で
つ
む
ぐ、

未
来
を
つ
く
る

CONTENTS

- P1 株主の皆さまへ
- P3 連結決算ハイライト
- P4 セグメント別の状況
- P5 株主還元／株主さまの声
- P6 KPPグループの3つの事業地域統括会社を
紹介します
- P9 GROUP TOPICS

株主さまの声をお聞かせください。
右の二次元コードから、アンケートへのご協力をお
願いいたします。所要時間は3分程度です。



市場変化に対応し、事業領域の拡大へ

グローバルシナジーを追求し、世界トップクラスのグローバル企業を目指す



代表取締役会長
田辺 円

代表取締役社長 兼 CEO
坂田 保之

ご挨拶

株主の皆さまには、長年にわたるご厚情に対し、心より御礼申し上げます。また、このたび新たに当社株主となりました皆さまには、謹んで歓迎の意を表するとともに、今後とも末永いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社は1924年の創立以来、紙パルプの専門商社として社会に貢献してまいりましたが、21世紀に入ると紙の需要構造はデジタル化の波と少子化によって情報系の紙が衰退する一方で、パッケージや衛生用紙など生活系の紙が伸長しており、海外においては業界の再編成が続いています。当社ではこのような市場環境の変化に対応すべく、M&Aをベースにエリアの拡大とポートフォリオ転換を進めており、現在では世界46カ国・地域、194都市で事業を展開するグローバル企業として歩みを進めています。今後は国内紙流通の再編が進むことも念頭に置き、海外事業においては、北米への本格進出と中国事業の再構築を重点課題として取り組めます。

中間期の業績

今年度の中間期は、欧州や中国経済の景気停滞に加え、トランプ関税の影響懸念等により消費者心理が冷え込み、紙の需要が減少し、売上高は3,191億86百万円（前年同期比4.4%減）となりました。利益面では、英国や一部の国・地域でリストラを実施したことによる一過性の販管費増加により、営業利益は38億81百万円（前年同期比41.0%減）、経常利益は19億76百万円（前年同期比55.7%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は22億47百万円（前年同期比30.9%減）と減益となりました。ただし、M&Aによるグループ会社の業績寄与により、紙以外のセクターでは増益を確保しました。

今後の見通し

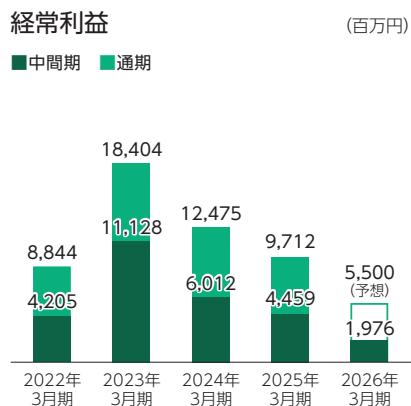
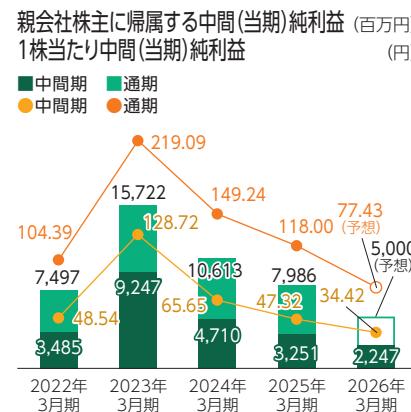
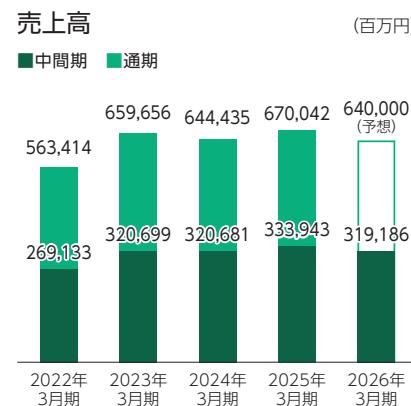
今年度の通期業績見通しにつきましては、今年11月に発表しました通り、親会社株主に帰属する当期純利益を50億円と下方修正しております。世界経済の成長鈍化や地政学リスクなど当社を取り巻く環境は依然不透明な状況にありますが、今年策定しました長期経営ビジョン「GIFT 2030」と第4次中期経営計画に基づき、外部環境の変化に左右されることなく安定的に収益を確保できる体質への転換を進めてまいります。「紙」ビジネスの領域を拡張し、新たな事業展開を図るために、「事業領域の拡大」「事業ポートフォリオの転換」「グローバルシナジーの追求」「Eビジネスの拡大・DXの推進」を事業戦略の重点施策として取り組み、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主還元

当社は、事業活動によるキャッシュ・フローに加え、政策保有株式の売却や有利子負債の活用を通じて、M&Aを中心とした成長投資および株主還元を進めております。株主還元については、安定的かつ継続的な配当に加え、業績に応じた利益還元を目指しており、連結配当性向30%を目安に、DOE（株主資本配当率）3.0%を下限とする方針としております。今期の中間配当は、こうした方針に基づき、予定通り1株当たり18円といたしました。また自己株式の取得につきましても、成長投資や政策保有株の売却状況を踏まえ柔軟に対応する方針であり、今年5月に発表した自己株式取得の状況につきましては、9月30日現在、取得株式総数1,279,200株、取得価格の総額は9億7,890万円となっております。

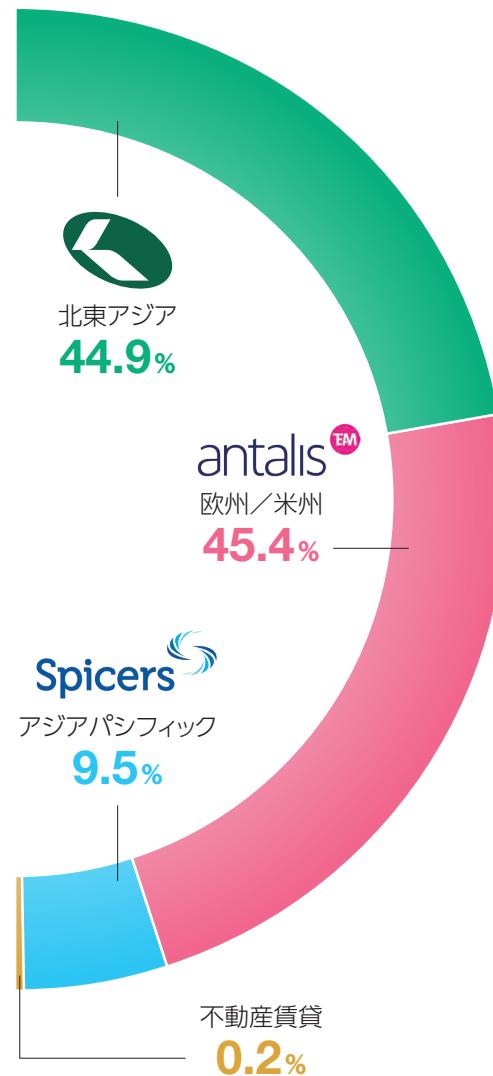
株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年3月期中間期



セグメント別売上高構成比

持株会社のKPPグループホールディングスのもと、事業地域統括会社の国際紙パルプ商事、アンタリス、スパイサーズが各エリアの事業運営を行っています。



北東アジア

- 売上高 **1,431億26百万円** (前年同期比 5.5%減)
- セグメント利益 **11億95百万円** (前年同期比 34.1%減)

欧州/米州

- 売上高 **1,448億87百万円** (前年同期比 4.1%減)
- セグメント利益 **19億23百万円** (前年同期比 47.2%減)

アジアパシフィック

- 売上高 **304億16百万円** (前年同期比 1.1%減)
- セグメント利益 **10億03百万円** (前年同期比 12.8%減)

不動産賃貸

- 売上高 **7億55百万円** (前年同期比 0.7%増)
- セグメント利益 **3億00百万円** (前年同期比 0.4%増)

株主還元／株主さまの声

■ 中間配当と期末配当の見通し

2026年3月期の中間配当は、1株当たり18円といたしました。期末配当も1株当たり18円を計画しており、年間配当は前期比2円増額の36円となる見通しです。



■ 自己株式の取得を進めています

2025年5月13日開催の取締役会で決議した自己株式の取得について、2025年9月30日現在の状況をご報告いたします。

- 取得した自己株式の累計：1,279,200株
- 株式の取得価格の総額：978,902,300円

株主還元の一環として、引き続き自己株式の取得を推進しております。

株主さまの声

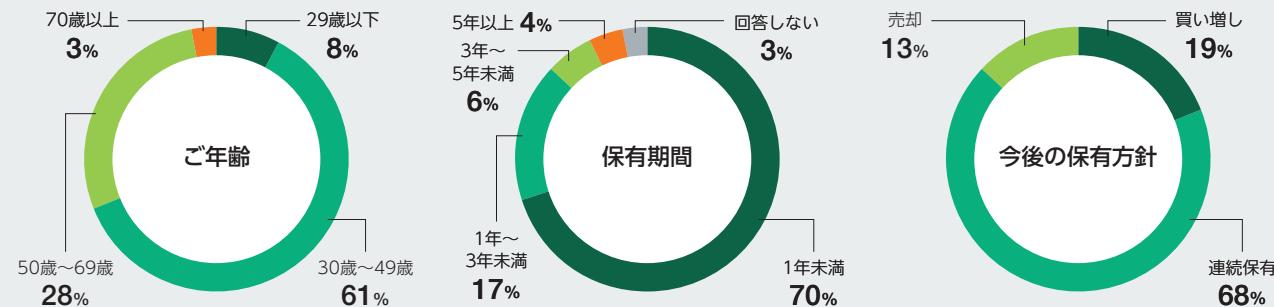
図書カードのデザインがとても素敵

次の図書カードはどんな絵柄にしようかな？

来年の株主優待図書カードの券面デザインを考案中です。お楽しみに！

株主さまアンケートへのご回答、ありがとうございました！

7月に実施したアンケートでは105名の株主さまからご回答と貴重なご意見をいただきました。ご回答の一部をご報告いたします。



アンケートにご協力ください

株主通信を手にとっていただきありがとうございます。株主さまのご意見を参考とさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。スマートフォンのカメラ機能で二次元コードを読み取りご回答ください。



株主さまの声

どんな事業をしているのか分からない

事業内容を もっと詳しく知りたい

KPPグループの3つの事業地域統括会社を紹介します！

KPPグループでは、紙の専門商社(紙商)である国際紙パルプ商事、スパイサズ、アンタリスが中心となり、それぞれの担当地域で事業を展開しています。今回は3社の特長をご紹介します。

北東アジア：国際紙パルプ商事



小馬井 秀臣
国際紙パルプ商事 代表取締役 社長執行役員

(2025年3月末時点)

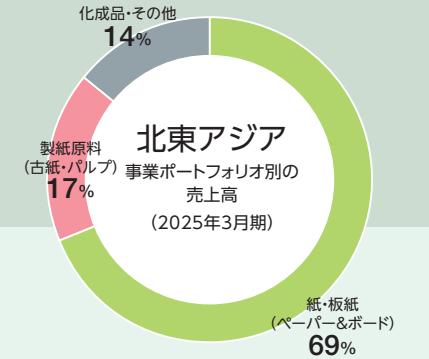
拠点

6カ国・地域 30都市 43カ所

従業員数

926名 日本

国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.



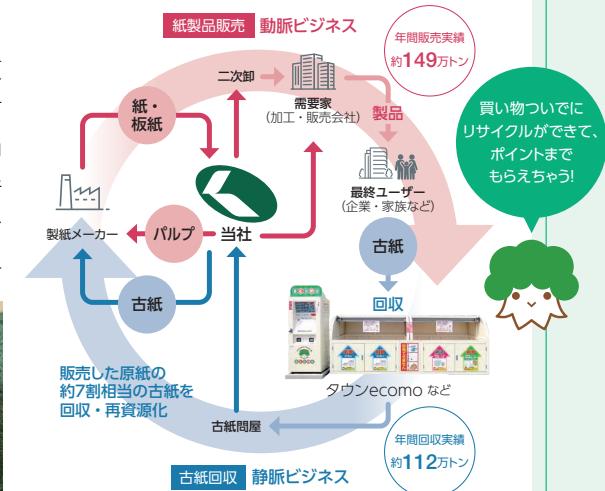
再生可能な素材である紙の流通を担う、紙・パルプの専門商社です。主に北東アジアで事業を展開し、製紙メーカーの代理店として安定的に紙製品を流通させる役割を担っています。国内では紙販売量の約7割相当を古紙として回収し、再資源化する「循環型ビジネス」が特長です。

ここが強み 製紙原料ビジネスと紙の糸

日本の製紙産業は古紙リサイクルを基盤としており、現在、国内の製紙原料の約6割を古紙が占めています。当社は紙の販売を「動脈ビジネス」、古紙の回収・再資源化を「静脈ビジネス」と位置付け、販売量の約7割相当の古紙を回収し、製紙メーカーに原料として供給しています。古紙回収手段の一つが「タウンecomо (エコモ)」。スーパーやショッピングセンターなどに設置されたタウンecomоに家庭の古紙を持ち込むと、買い物に使えポイントがもらえます。もう一つの強みはグループ会社の王子ファイバーが開発した「かみのいとOJO+ (オージョ)」を使った紙製の人工芝「ペーパーターフ」です。マイクロプラスチック汚染問題への対策としてメディアに取り上げられることも多く、導入事例が増えています。



紙でできた人工芝「ペーパーターフ」



KPPグループの3つの事業地域統括会社を紹介します！

アジアパシフィック:スパイサーズ



デイビッド・マーティン
CEO, Spicers Limited

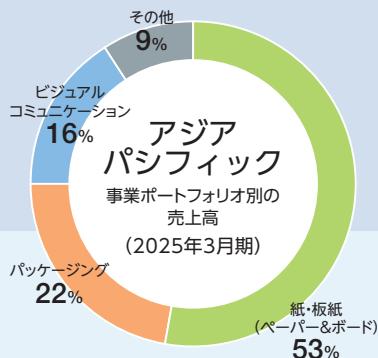


拠点 (2025年3月末時点)

9カ国 23都市 33カ所

従業員数 本社

665名 オーストラリア



1896年創業の豪州の紙商スパイサーズは、2019年にKPPグループの一員となりました。現在はアジアパシフィック地域（オーストラリア、ニュージーランド、東南アジア、インド）で商業印刷などのペーパー事業、産業用包装材を扱うパッケージング事業、ビジュアルコミュニケーション事業を展開しています。

ここが強み 顧客志向と提案力で生み出す成長

スパイサーズでは徹底した顧客志向の事業運営を行っています。需要家が求める付加価値を的確に捉え、課題の解決につながる技術や製品の調達力が同社の強み。その代表例が、包装材のフィルムラミネートの代替となるコーティング剤「Papkot」の独占販売契約です。Papkotはリサイクル可能で生分解性を備え、製造のどの段階でも既存設備を生かして塗布できるコーティング剤です。性能を損なうことなくプラスチックフィルムを代替できるため、環境配慮型の包装を求める顧客に大きな価値を提供できます。このように顧客ニーズと自社の提案力を結びつけるビジネス開発力で、スパイサーズは業績を伸ばしています。



Papkotの独占販売を通じ、脱プラに貢献するパッケージングソリューションを提供

KPPグループの3つの事業地域統括会社を紹介します！

欧州/米州:アンタリス



エルベ・ポンサン
CEO, Antalis S.A.S.

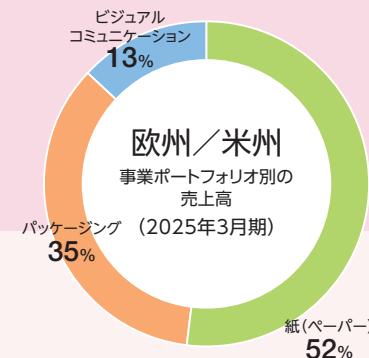


拠点 (2025年3月末時点)

31カ国 141都市 137カ所

従業員数 本社

4,345名 フランス



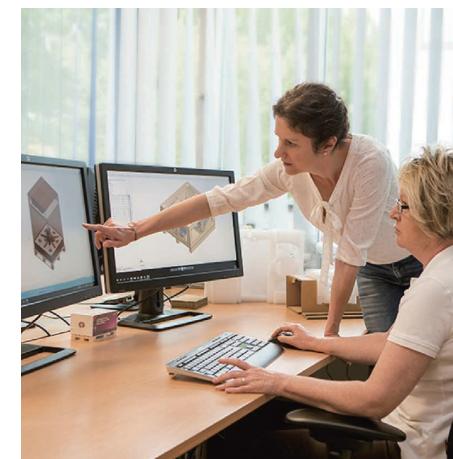
10万社以上の顧客を持つ欧州最大の紙商アンタリスは、2020年にKPPグループの一員となりました。現在は欧州および米州地域を担当し、主要3事業（ペーパー、パッケージング、ビジュアルコミュニケーション）を展開しています。中でもとりわけパッケージング事業に特色があります。

ここが強み Eビジネスとビスポークパッケージング

ビスポークパッケージングとは、顧客のニーズや課題に合わせて設計されたカスタムメイドの梱包ソリューションのことです。欧州各地に設置されたデザインセンターにはパッケージングの専門家が常駐。輸送手段や輸送ルート、現場での保管方法、使用後の廃棄まで考慮した最適なパッケージを提案しています。広範なサプライヤー・メーカーとのネットワークを生かし、豊富な包装資材からベストな解決策を提供できるのもアンタリスの強みです。さらにEコマース分野でもグループをリードしています。デジタル戦略「Power-e」のもとオンライン売上件数が受注全体の半数を超えるなど、Eビジネスの拡大が続いています。



デジタル戦略に注力



パッケージングデザインセンター

KPPグループホールディングス

「知られざるガリバー」に登場しました

テレビ東京系列で8月2日に放送された「知られざるガリバー～エクセレントカンパニーファイル～」にKPPグループが出演しました。同番組は日本が世界に誇る「知られざる」企業の実像に迫る情報ドキュメンタリーで、大学生リポーターが紙の流通・リサイクル現場取材。「紙のライフサイクル」とそれを支える当社の資源循環型ビジネスモデルが紹介されました。取材にご協力をいただいた多くのお取引先各社に感謝いたします。



※トラスコ中山株式会社の許諾を得て使用しております。無断転載・加工はご遠慮ください。

次世代グリーンCO₂燃料技術研究組合(通称「raBit」)に賛助会員として参加

raBitは自動車用バイオエタノール燃料の製造技術を研究しており、当社グループ会社のKPPアグリソリューションズが栽培・収穫するソルガムを原料として供給します。



今年収穫したソルガム(福島県双葉郡浪江町)

スパイサーズ

昼食が必要な子どもたちへサンドイッチを届けて支援

スパイサーズと子会社のSignetは、オーストラリアの非営利団体「Eat Up Australia」と協力し、支援を必要とする地域の子どもたちに昼食を届ける活動を実施しました。スパイサーズでは5月14日に2,400個、Signetでは5月12日に1,112個のサンドイッチを作り地域の学校へ届けました。



ボルトオン型買収でパッケージング事業を強化

スパイサーズの子会社のSignetが、オーストラリアの産業用包装資材を販売するABL Distributionからパッケージング事業を取得する事業譲渡契約を締結しました。成長が見込めるパッケージング分野で両社の製品・サービスを生かした新たな事業機会の創出を図ります。

国際紙パルプ商事

「かみのいとOJO+」×東京モード学園 次世代デザイナーの作品を展示

国際紙パルプ商事と子会社の王子ファイバーは、「かみのいとOJO+」を用いた東京モード学園の学生による4作品を、10月1～3日開催の「Faw TOKYO 第16回ファッションワールド東京 秋」で披露しました。

この展示は6月に始動した東京モード学園との産学連携プロジェクトの一環として行われ、学生たちは講義や素材研究、デザイン制作を通じて、環境に配慮した新しいファッションの形を模索しました。自由な発想と素材への探究心が融合した作品は、多くの来場者の注目を集め、会場で実施した人気投票では、原嶋汰さんの作品「折華」が最多の198票(619票中)を獲得しました。投票結果と他の作品は二次元コードからご覧いただけます。



アンタリス

自動車業界向けビスポークパッケージングを提案

アンタリスは6月に英国で開催された自動車関連展示会「Automechanika Birmingham 2025」に出展。自動車業界向けに、同社の得意とするビスポークパッケージングを提案しました。



ピークシーズンに向けて従業員の心身の健康を支えるイベントを開催

アンタリスUKのコールビル拠点では、繁忙期に向けて従業員の心身の健康を守る「Get Peak Ready」を開催しました。多彩なプログラムの中でもデスクピラティスは大人気で全セッションが満席になりました。今後も従業員のメンタルヘルスを重視した取り組みを続けていきます。



中間配当実施のお知らせ

2025年11月14日開催の取締役会におきまして、中間配当につき、1株当たり18円とすることを決議いたしました。期末配当につきましても、1株当たり18円を計画しており、これにより年間配当は、前期と比べ、1株当たり2円増額の36円となる見通しです。なお中間配当金のお支払開始日は、2025年12月2日とさせていただきます。

株式の状況・会社概要

株式の状況

(2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	267,500,000株
発行済株式の総数	67,244,284株 (自己株式1,279,200株含む)
株主数	27,655名
所有者別の株式保有比率	

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
王子ホールディングス株式会社	11,173	16.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,182	7.8
株式会社日本カストディ銀行(りそな銀行再信託分・北越コーポレーション株式会社退職給付信託口)	2,300	3.4
KPPグループホールディングス従業員持株会	2,148	3.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口)	1,922	2.9
INTERACTIVE BROKERS LLC	1,466	2.2
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,289	1.9
株式会社みずほ銀行	1,192	1.8
日本製紙株式会社	1,180	1.7
株式会社三菱UFJ銀行	1,095	1.6

(注) 持株比率は、自己株式(1,279,200株)を控除し、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する株式(1,922,351株)を含めて計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、 期末配当 毎年3月31日、中間配当 毎年9月30日 その他必要がある場合は、予め公告する一定の日
公告の方法	電子公告 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。

会社の概況

(2025年3月31日現在)

商号	KPPグループホールディングス株式会社
設立	1924年(大正13年)11月27日
本社	東京都中央区明石町6番24号
資本金	47億2,353万円
従業員数	5,974名(連結) 34名(単体)
主な事業内容	子会社等の株式又は持分を所有することによる 子会社の事業活動の支配・管理並びに不動産の保有、 賃貸等
連結子会社	100社
関連会社	7社

取締役及び監査等委員

(2025年9月30日現在)

代表取締役会長	田辺 円
代表取締役社長 兼 CEO	坂田 保之
取締役	デイビッド・マーティン
取締役	エルベ・ボンサン
取締役	小馬井 秀臣
取締役(社外)	矢野 達司
取締役(社外)	伊藤 三奈
取締役 監査等委員	中川 直樹
取締役 監査等委員(社外)	片岡 詳子
取締役 監査等委員(社外)	工藤 陽子

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
同連絡先(郵便物送付先電話照会先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
証券コード	9274
上場取引所	東京証券取引所プライム市場

